

1 全体計画

学校の教育目標学

○地域に生きる南台の子 ・かしこく ・やさしく ・げんきよく

令和年度学校経営方針

1 地域に根ざした開かれた学校づくり 2 豊かな心の育成 3 学力と体力の向上

本校の捉える「確かな学力」

○主体的に学びに向かう力 ○基礎的・基本的な知識技能の定着 ○思考力・判断力・表現力

令和元年度の指導の重点

<各教科>・主体的・対話的な学びになるように授業改善をしていき、学びに向かう力を育てる。
 ・個に応じた指導を充実させ基本的な知識・技能を身につけると共に、問題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。

<総合的な学習の時間>・自ら課題を見つけ、解決していく探究的な学びを通して、自分で問題を解決していく力やもの見方・考え方を育成する。

<生活指導>・安全で、児童一人ひとりが安心して学習できる生活環境、いじめを許さない学級集団をつくり、あいさつや返事が自分からできる、心身ともに健康な児童を育てる。

<道徳>
 ・豊かにかかわり合う活動を重視し、他者との対話を通して、自己を見つめ、自分の生き方について考えようとする児童を育てる。

<進路指導>
 予測が困難な社会の変化に主体的に対応するため、生涯を通じて学ぶ態度や能力の育成を図る。

<特別活動>
 ・話し合い活動の仕方を身に付け、多様な集団活動を通して、自主的に活動を創り上げる意識と実践的態度を育てる。

授業改善の視点

<p>指導内容・指導・方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかわりながら学ぶことで、学力を身につけるとともに、よりよい人間関係をつくる。 ・ICT等による個に応じた指導や見通しと振り返りにより主体的な学びを実現する。 	<p>教育課程編成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な放課後学習を行い。基礎基本の定着をはかる。「寺子屋南台」 ・夏季休業中にも「寺子屋南台」の学習を行う。 	<p>評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座席表などを活用し、子供を見取り記録していく。 ・評価を次時の学習に活かし、指導と評価の一体化を行っていく。 ・2学期制の趣旨を生かした評価を大切に支援を重ねていく。 	<p>校内研究・研修の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの教科でも「豊かなかかわり合い」を生かした授業構成を行う。他教科・領域の横の繋がりだけでなく、異学年との縦の繋がりも考慮できるよう「総合的な学習の時間」「生活科」を要に研究を行う。 	<p>家庭・地域との連携の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針に基づいた学校の考え方を保護者や地域に伝え、共有し、地域と共に子供を育てるようにする。（連携教育の推進） ・地域の人材を活用した授業を公開していく。
---	--	--	---	---

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・日常の算数の学習において、基礎的な学習を行うクラスに入り、個別の児童の実態を把握する。
- ・放課後補充教室にて、個別に対応した課題を行い、基礎基本の定着を図る。
- ・夏季休業中に補充学習において、全学年のサポートを行う。

A L T の活用の工夫

- ・年間計画を示し、A L T の活用場面を学校全体で共有する。
- ・担当がT 1 となるよう、A L T との十分な打合せを行い、授業内容の工夫を行う。
- ・教室でのICT機器の活用と併用し、ネイティブな発音で児童に伝え、活動を行う。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- ・授業だけではなく様々な場面で、相手の話を注意してよく聞く習慣をつけ、何を話していたのか確認し、最後まで聞き、内容を理解しようとする態度を養う。聴写も取り入れていく。【話す聞く】
- ・書くことの単元や国語の時間だけでなく他教科他領域でも書く活動を取り入れていく。【書くこと】
- ・語彙力や読み取りの力を身に付けさせるために、読書活動を多く取り入れたり、国語辞典や類語辞典を使った活動や言葉集めを行ったりする。【読むこと・言語】
- ・話の内容を読み取ることや、自分の思いを言葉で表現することへの苦手意識をなくすために、授業時間のみならず、家庭学習との連携を図り、継続して復習を行う。特に、音読や日記等を多く取り入れ、抵抗をなくし、習慣化する。【読むこと・言語】

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい口形を意識しながら、楽しんで音読しようとする児童が多い。 ○文字の学習において、字の形を捉えることができるようになった児童が多い。画の長さや方向等はまだ個人差が大きい。 ○文章の中で「は、を、へ」などの助詞の使い方を習得できていない児童もいる。 ○話を聞く時に集中が続き、最後まで話を聞くことができない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音読を積み重ねることで、文章の内容を理解したり、登場人物の心情などをより深く考える力を育てたい。 ○日常生活の中で、常に読み手に分かりやすい正しい文字を書けるようになってほしい。 ○助詞を的確に使い、相手に分かりやすい文を書いたり、話したりする力が必要である。 ○教師や友達の話を聞き、学びをより深めたり、考えを広げたりしようとする姿勢に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1人やグループ、クラス全員等読み方を工夫したりしてより音読を楽しめる場を設定する。また、授業で学んだ内容を表現に生かすなどして学習内容が高められるようにする。 ○教室内に平仮名50音表を掲示し、いつでも正しい字形を確認できるようにする。友達とノートやワークシート等を読み合い、考えを交流させる活動を取り入れ、相手意識を高める。 ○日常の会話の中で適切に助詞を使い分かりやすく話ができるよう、言語環境を整える。文を書いた後は、自分で声に出し読み返すことで自分の文を振り返られるように習慣づける。 ○話を聞く時の姿勢を整える。教師や友達の話を聞くと嬉しい、学びが広がり楽しいという体験を重ねることが聞く意欲につながるので、日々の授業から話題を明確にした上

			で、児童の多様な発言を活かす話し合い活動作りに努める。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○発問や問題文を理解できない児童がいる。問題の意味を自分の解釈でとらえ、解いてしまう。 ○文章を書くことに慣れていない。 ○自分の考えを整理して話すことを苦手としている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み物教材の学習では、様子や心情の読み取りが中心で、言葉に対する着目のさせ方が弱い。 ○話型の例示が少ない。 ○伝えたいと思わせるような題材の提示や相手意識をもたせることを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書を推進し、読み聞かせなどを行うことによって、文章への興味や言葉に対する感覚や着目の仕方を養う。 ○書かせるだけでなく、文章表現の分かりやすいところや工夫したところを提示する。家庭学習に日記を取り入れ、書く機会と指導機会を増やす。 ○スピーチメモや話型を用いて、内容を整理して話す指導をする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を読んで内容を理解したり、話を聴いて理解し、それを深めていく力が十分ではない。友達の考えを聞いたり、感想を伝えたりすることが少ない。 ○書くことにあまり工夫がなく、より豊かな言語表現で伝えようとする姿勢があまり見られない。 ○自分の考えを整理してわかりやすく話すことを苦手としている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の話を聴きあったり学び合ったりして深めていく良さを実感できていない。わかろうとして聴いたり読んだりできていない。 ○書くことや伝えることのよさを実感できる指導ができていない。書いて表現する学習が少ない。 ○相手意識・目的意識をもって伝えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理解できているか、どう思ったかを確認しながら授業をすすめていく。より多くの場面で学び合う活動を取り入れ、考えを深めていったり、新しい考えに気付いたりする。 ○書かせるだけでなく、文章表現の分かりやすいところや工夫したところを発表し合う。全教科を通じて書く機会を多くする。 ○書く活動や話す活動では相手意識・目的意識を明確にしてから活動に入るようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○大事なことを聞き取り、メモをしたり、題意を捉えたりすることができない児童が多い。 ○漢字や語彙の習得が不十分な児童がいる。 ○ローマ字を書く理解が 	<ul style="list-style-type: none"> ○メモをする習慣がない。 ○知らない言葉が出てきたときに調べる活動をする児童が少ない。 ○ローマ字は、指導する時間が少ない。 ○書くことや伝えることのよさを実感できる指 	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の生活や学習の中で、大切なところを聞き落とさないようにメモをさせる。 ○教室に辞書を置いたり、東京ベーシックドリルを使用したりして、語彙を増やす。 ○自分の名前を書く等、身近なところから指導し、興味関心

	<p>足りない児童が多い。</p> <p>○書くことにあまり工夫がなく、より豊かな言語表現で伝えようとする姿勢を指導する必要がある。</p> <p>○物語文、説明文ともに、読み取りの力が身に付いていない。また、表と関連付けて読むことができない。</p>	<p>導ができていない。</p> <p>○表等と関連付けた文章の読み取りの経験が少ない。筆者の思いや話の要点を押さえて読む経験が少ない。</p>	<p>をもたせる。</p> <p>○各教科の学習でも自分の思いや出来事を詳しく丁寧に文章にする活動を重視する。</p> <p>○物語文、説明文ともに、文章中の叙述に即して、根拠を明らかにして読むよう指導する。</p>
5年	<p>○大事なことを漏らさず聞き取ることが難しい児童が多い。</p> <p>○語彙が乏しく、習った漢字を正しく活用できない児童が多い。</p> <p>○ローマ字が定着しておらず、正しく活用できない児童が多い。</p> <p>○物語文、説明文ともに、読み取りの力が身に付いていない。</p> <p>○段落等の文章の決まりを守り、ある程度の長さの文章を書くことができない。</p>	<p>○要点の聞き取り方とメモの取り方が理解できていない。</p> <p>○学習した漢字を使って文章を書く練習が足りない。</p> <p>○ローマ字の反復練習が足りない。</p> <p>○物語文や説明文の構成や段落相互の関係に着目して読むことの経験が乏しく、理解できていない。</p> <p>○段落や構成を意識して文章を書いたり、互いの作品（作文）を読みあう経験が少ない。</p>	<p>○日々の生活で、簡潔にメモをとる場面をつくり、習慣を身に付けさせる。</p> <p>○習った漢字を使って文章を書く経験を増やしながら語彙を増やす。</p> <p>○パソコン入力などでローマ字を使う場面を多くし、興味を高め、身に付けられるようにする。</p> <p>○物語文や説明文の構成や段落相互の関係を分かりやすく示し、文章の構造や主題を考えながら読むことを指導する。</p> <p>○書くことの指導過程を踏まえて重点をおきながら指導し、書く意欲を高め、書く方法を身に付けさせる。作品の交流を通して互いのよさを認め合えるようにする。</p>

6
年

- 大事なことを漏らさず聞き取ることが難しい児童が多い。
- 語彙が十分でなく、習った漢字を正しく活用できない児童がいる。
- ローマ字が定着しておらず、正しく活用できない児童が多い。
- 物語文、説明文ともに、読み取りの力が身に付いていない。
- 段落等の文章の決まりを守り、効果的な構成を考えた文章を書くことが難しい児童が多い。

- 要点の聞き取り方とメモの取り方の練習が足りていない。
- 学習した漢字を使って文章を書く練習が足りない。
- ローマ字の反復練習が足りない。
- 物語文や説明文の構成や段落相互の関係に着目して読むことの理解が不十分である。
- 段落や構成を意識して文章を書いたり、互いの作品（作文）を読みあう経験の積み重ねが足りない。

- 様々な教育活動の中で、簡潔にメモをとる場面をつくり、習慣を身に付けさせる。
- 習った漢字を使って文章を書く経験を増やししながら語彙を増やす。
- パソコン入力でローマ字を使う場面を多くして興味を高め、活用しながら身に付けるようにする。
- 物語文や説明文の構成や段落相互の関係を分かりやすく示し、文章の構造や主題を考えながら読むことを指導する。
- 書くことの指導過程を踏まえて重点をおきながら指導し、書く意欲を高め、書く方法を身に付けさせる。作品の交流を通して互いのよさを認め合えるようにする。

(2) 社会科

社会科の重点

- ・問題解決的な学習を通して、社会的事象の見方・考え方を育てる。
- ・主体的な学びになるように、学習計画や学習の振り返りを大切にして、見通しをもって学習できるようにする、
- ・「つかむ」「調べる」「まとめる」の各学習過程において、疑問を交流したり、友達と協力して調べたり、考えたことを伝えあったり、協働的・対話的に学習を進め、学びを深める。
- ・学校だけではなく、社会とのつながりを考え、地域社会に親しみをもてるようにする。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科見学や町探検などの活動は意欲的に取り組む。地図を見る活動や地図にまとめる活動は楽しんでやっている。 ○疑問から調べたいことを考えられる児童が少なく、問題意識をもって取り組めていない。 ○見学などでわかった事実を比較・関連・総合させていくのはむずかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動には興味をもっているが、社会科としてのねらいにそった内容に興味関心をもたせることが十分ではない。 ○児童の気づきなどを言語化して全体に共有していく活動が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が興味や疑問をもつ資料や教材を選び、提示方法や発問を工夫する。学習計画は児童の予想をもとに、一緒に考え、見通しをもたせる。 ○児童に問題解決的な学習の流れを説明し、各単元で繰り返し行う。 ○児童の実態に応じて、集団の規模や内容を工夫しながら、気づきを共有できるように、児童が学び合う活動を重ね、見方・考え方を活用できるように指導していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ○教師からの指示や課題を待つ児童が多い。 ○水道の蛇口調べや学校や地域の防火設備調べなど目で見たものに対する興味関心が高く、意欲的に活動することができる。 ○疑問などから学習問題につなげられる児童が少ない。 ○調べたことや資料を関連付けて考えたり、意味づけて考えたりする力は弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学ぶことの喜びや良さを日々の学習のなかで実感させたり、資料を精選し提示したりする必要がある。 ○素直に学習に臨める児童が多いので、経験したことを、次の学習にいかしていく。 ○児童が見通しをもてるようにするために学習活動を工夫していく必要がある。 ○問題解決的な学習や対話的な学習を一層進め 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の疑問や気づきをもとに主体的に学習が積み重ねられるよう、より児童の疑問につながる、見やすくわかりやすい資料を選ぶ。 ○疑問や気づきを交流し、それらをもとに見通しをもてる学習計画を立てる。 ○学んだ事柄や学ぶことの良さを自分自身や学級で振り返ることができるように、学習計画を工夫する。 ○児童が興味や疑問をもつ資料や教材を選び、提示方法や発問を工夫する。学習計画は児

		ていく必要がある。	<p>童の予想をもとに、一緒に考えられるようにする。</p> <p>○児童の発言や記述などを価値づけたり、問い返しをしたりして、児童に問題解決的な学習の流れを繰り返し実感させる。</p>
5年	<p>○資料を読み取り、知識として習得することを苦手とする児童が多い。</p> <p>○既習事項をもとに自分の考えを膨らますことが苦手な児童が多い。</p>	<p>○教科書や資料集を日々の学習のなかで取り上げる必要がある。</p> <p>○資料集や映像資料を活用し、考えの想起を促す。</p>	<p>○資料を活用し、経緯や理由について、それぞれの考えを交流し、疑問や気づきをもとに主体的に学習が積み重ねられるよう、学習計画を工夫する。</p> <p>○児童の実態に応じて、自分の言葉で伝え合う機会を増やす</p>
6年	<p>○資料の読み取り、または資料の読み取りから判断、考察し表現することができる児童が多い。一方で読み取れない児童もいる。</p> <p>○考えを共有することが好きな児童が多い。一方で表現することが苦手な児童もいる。</p>	<p>○資料の読み取りや考えを共有することを重点に指導したため、知識面での習得が足りなかった。</p>	<p>○意図をもって資料を示し、読み取る観点を示しながら、読み取ったことを自己の経験等の情報と関連付けて考察する機会を増やすことで、生きてはたらく知識の習得を目指す。</p> <p>○児童同士で読み取ったことを共有する機会を十分に確保する。</p>

(3) 算数科

算数科の重点

- ・ 数学的な思考力を高めるため、グループやペアなど、対話的な学習を多く取り入れた授業を展開する。
- ・ 課題解決学習を取り入れ、主体的に課題に向き合い、見通しをもち、自ら創意工夫し、解決を図る能力を培う。
- ・ 学習や単元の終わりに、その学習の振り返りをさせることにより、既習事項を活かしてより深い学びに気付く機会をもたせる。
- ・ 知識や技能を、より定着させるために、少人数指導や個別指導で基礎・基本の徹底を目指した授業の展開を図るとともに、東京ベーシックドリルやくり返しドリルを朝学習や宿題として活用し、復習や補習を充実させる。家庭へ働きかけ、家庭学習の習慣化を図る。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 足し算や引き算の場面を考えられるようになり、立式や問題作りができる児童が多いが、問題場面がイメージできずにいる児童もいる。 ○ 計算の正確さや速さに個人差がある。 ○ 時計の読み方の習熟に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題場面を理解する力に大きな個人差がある。 ○ 数の概念の獲得状況に個人差があり、計算の仕方にも個人差がみられる。 ○ 日常生活で時計に触れる経験に差があり、習熟にも個人差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵や簡単な図を提示したり、既習の問題を振り返られるように掲示を工夫する。また、日常生活の場面と学習がつながりをもてるようにし、学習が生活に生きる経験を重ねさせる。 ○ 個人差があるため、ブロック等を使って考える、指を使って考える、簡単な図に描いて考える等、自分の段階にあった補助方法の活用を児童が選択できるよう、各教室に教材や教具を常備し、いつでも使えるようにしておく。 ○ 時計の単元の学習時のみでなく、折に触れて時計を読んだり、時計を見て行動させたりして、常に時計に触れることで確実な習熟を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計算の式をたてることは出来るが、図などで表すことが難しい。 ○ 「時刻と時間」の指導を9月に行うものとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技能面の定着に時間がかかり、文章から図をどう書いていくのかを指導しきれていない。 ○ 時刻と時間、図形の指導配当時間が少なく、学力調査の結果を見ても正 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体物を使った算数的活動を児童の個々の実態に合わせて行わせ、技能面の定着に時間がかかる児童の思考過程の時間を確保する。 ○ 夏休みの宿題にも時刻と時間、図形の学習プリントを入

		<p>答率が低い。</p>	<p>れることで、学習の補充を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○普段の生活の中で時計を見て行動することを意識させ、時刻を読む機会を増やしていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題や、算数的活動に積極的な児童が多い。 ○単位間違い、簡単な計算間違いが見られる。 ○基礎的な問題を解くことはできるが、少し思考が必要になる応用問題では無答の児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長さの単位や量の単位などを復習させていくことが必要である。 ○思考の流れやつながりを意識して学習に取り組めていない。(正答か誤答かのみを意識があり、過程の扱いが軽い。) ○数学的活動と日常が結びついていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新出の単位が出た時や、問題などで単位の変換が出てくる授業では、導入などで復習をさせることで、既習事項も含めて定着を促す。 ○学習の中で、友達の手から学ぶ機会を設ける。よい学び方をしていたら全体に広げて、よい学習の仕方を意識させる。 ○ノート指導を充実させ、思考の流れが分かると同時に振り返りをさせる。 ○既習事項とのつながりを意識させ、日常場面と問題場面を結び付けて指導を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○発問や問題に対して積極的に取り組んでいる児童は多い。 ○図形やグラフをかくこと、分度器やコンパス、三角定規などの使い方が難しい児童もいる。 ○なぜこうなるのかなどの説明などが難しい児童もいる。 ○言葉を読み取る力が弱い。また、計算はできているが、計算の仕組みを理解したり、計算の方法を工夫したりする応用力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作図の力を付ける必要がある。 ○自分の意見、考えの根拠になるものを考えさせていく。 ○問題を読み取る力を付けることが必要である。 ○知識や考えの根拠が曖昧であり、仕組みや考えの理解が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンパスや三角定規を使用した三角形、四角形の復習を適宜取り入れていく。 ○既習事項の確認をしたり、隣同士で考えや意見などを交換しあったりして、自ら気づく機会を設定したり、自分の考えの根拠を見つけさせていく。 ○問題文を音読したり、サイドライン等を引いたりして、問われていることへの理解を促す。また、教材や教具を用い、具体的な場面理解を促す。 ○学習の振り返りを児童の言葉からまとめさせる。自らの言葉で正しく理解できているか振りかえさせる。

5年	<p>○積極的に問題に取り組む児童が多い。</p> <p>○ノート等には自分の考えを書いているが、全体に発表することが難しい児童が多い。</p>	<p>○自分の考えや意見に自信をもたせていく必要がある。</p>	<p>○ペアや小数のグループで自分の考えや意見を発表しあったり、友達の考えなどを聞いたりすることで、自分の考えに自信をもたせ、発表することに慣れさせていく。</p>
6年	<p>○発問や問題に関して積極的に取り組む児童が多い。</p> <p>○図形の面積や体積、特に円周率など小数点が入ってくる掛け算が難しい児童がいる。</p> <p>○先取り学習をしている児童もいるため、数学的思考力が高まりにくい児童もいる。</p>	<p>○小数の入った掛け算、割り算の復習をしていく必要がある。</p> <p>○既習した知識や学習内容を別のものに応用できるようにさせる必要がある。</p>	<p>○導入などで小数の入り混じった計算を適宜復習させていき、計算ミスをなくしていくことを目指す。</p> <p>○学習に入る前に前時の内容や、前学年などの内容も想起させながら既習事項と学習内容を結び付けて定着を図る。</p>

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

- ・日常の算数の学習において、基礎的な学習を行うクラスに入り、個別の指導を行うとともに児童の実態を把握する。
- ・レディネステストを行い、児童の実態を把握してクラスを編成していく。
- ・放課後補充教室やにて、夏季休業中に補充学習において、個別に対応した課題を行い、基礎基本の定着を図る。

(4) 理科

理科の重点

- ・観察・実験の技能を高めるために、各単元の「観察のポイント」、「実験のポイント」を明確にし、継続的に指導を続け、技能を高める。また、観察・実験に必要な知識・技能の確認を定期的に行う。
- ・問題→予想・仮説→計画→実験→結果→考察→結論の流れを提示し、授業の展開を視覚的にパターン化して取り組ませることで、学習の目的を明確にする。
- ・目的意識をもって実験に取り組むために、各単元での問題作りを確実にを行う。何のためにこの実験をするのか、毎時間のねらいを児童に対して明確に把握させる。また、結果や考察、結論で、問題を振り返り、実験から得たことを知識として習得できるようにする。
- ・ノート指導を通し、観察・実験等の記録の仕方、自分の考えの表現の仕方を指導する。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	○動植物をしっかりと観察しようとする力や、それを表現する力はあまり育っていない。	○動植物への関心はあるが、観察のポイントや表現の仕方が分からない。また、児童の自然体験に差がある。	○観察のポイントについて共通理解をし、よい例示をしたり、友達の観察のよさを見つけたりする学習を行う。学習以外でも継続的に動植物とかかわる機会を設定する。
	○疑問から課題をもち、それを明らかにする、学習の流れに慣れていない		
4年	○実験や観察に意欲的に取り組む児童が多いが、実験や観察のポイントを示しても、それに沿って観察ができない児童がいる。	○実験や観察は、好んで活動していても、何のために行っているかの理解が十分でないことがある。	○観察や実験の観点を具体的に例示し、適切に書けている児童の観察カードや記録カードの記入の仕方を紹介し、指導する。
	○実験結果を考察したり、次の問題を導き出したりすることが難しい児童がいる。		

5年	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察に意欲的に取り組む児童が多い。 ○実験や観察の目的をきちんと理解していない児童がいる。 ○実験結果から、分かることを自分の言葉でまとめたり、表現したりすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察のポイントを示しても、丁寧にまとめる子とそうでない子とで差がある。 ○時期に合わせて実験を行うことが難しいことがある。 ○記述の型や枠がないと記述が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポイントを絞って提示して、丁寧にまとめている子のまとめ方を参考にさせる。 ○スムーズに実験を行えるように、理科T・Tと連携を図り準備を行う。 ○記述の型や枠で書き方、形式を示し、学習の振り返りをこまめにして、自分の言葉でまとめることを習慣化していく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○実験・観察に意欲的な児童が多い。 ○学習内容が理解できたつもりでも、定着せず学習した知識をもとに、別の事象に結び付けて考えたり、推測したりして活用することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験における実体験が知識・理解につながらない。 ○学習したことを一般化して応用することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験結果からどのようなことが考えられるのかについて考える演習を多く行う。 ○ビデオなどの視聴覚教材を効果的に活用して家庭や身の回りに活かされている具体例を示し、生活と関連付ける活動を増やす。

(5) 生活科

生活科の重点

- ・調べたことのまとめや発表がしっかりできるよう、色々な方法や表現でのまとめ方について紹介し、指導する。
- ・体験学習の中で新しい気づきの観点を紹介したり、気付いたことや考えたことをカードに書かせ友達同士で発表させたりして、表現のおもしろさや工夫を共有できる場を設ける。
- ・地域の人々と関わる活動を通して、自分の暮らす地域に関心をもつとともに、愛情をもち大切に
する気持ちを育てる。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○季節の変化に気づき、自然の様子に親しみをもって観察をすることができている。	○地域の素敵などころに気付くことはできているものの、自分の言葉で表現したり、交流したりすることは苦手としている児童がいる。	○班での交流の時間を設けたり、工夫して気づきを表せるような例を提示したりしながら指導する。
	○自分たちが住む地域の施設や人に関心を持ち、愛着をもって関わったり、利用したりしようとする思いが育ってきた。		
2年	○体験的な学習には、意欲的に取り組み、一人一人の気づきや思考があった。	○一人ひとりの気づきや思考をみとる方法をもう少し模索したい。 ○例示をもう少し具体的に示す。	○気づきや思考をみとるための振り返りを細目にさせる。 ○体験的な学習以外のところでは、ゲストティーチャーの活用や写真など視覚的にうったえるものを多く取り入れ、興味・関心や意欲の高揚・持続を図る。
	○体験的な学習そのものに比べると、そのほかの学習において興味・関心や意欲を持続するのが難しい児童がいる。		

(6) 音楽科

音楽科の重点

- ・すべての児童が主体的に、自分が表したい音楽表現をするために必要な技能が身に付けられるように、音楽の基礎・基本、及び、学びに向かう態度を育てる。
- ・対話的な学びを通して、音楽の諸要素や仕組み、歌詞の内容を手がかりにして曲想を感じ取り、より深く音楽のよさを味わって聴いたり、自分の思いや意図をもって表現したりできるようにする。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○リズムを楽しみながら、体を動かし音楽に親しんでいる。鍵盤ハーモニカでは、タンギングの仕方、指使いが少しずつできるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍵盤ハーモニカのタンギング・指使いが未習熟の児童がいる。音の出し方や、吹き込み方が困難な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間指導の中から、タンギングの仕方と指使いを確認し、一人一人の奏法指導を行う。息の吹き込み方を「トー」と、言語化しイメージ化を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的にとっても落ち着いている。歌の音程が取れない児童もいるが、よい音程で歌え、リズム感もよい児童も多い。 ○発言は決まった児童になるが、人の発言を聞くことはできる。自分の考えをもって、全員発言できるようにしたい。 ○個人差はあるが、鍵盤ハーモニカの運指やタンギングがよくできている子供が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌声のコントロールができない児童がいる。 ○発言しない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容や曲の感じに合った表現を工夫する活動を通して、「元気な歌声」だけでなく、様々な声色があることを知り、発声の仕方を工夫できるようにする。 ○ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動を行ったり、ワークシートに記入したりして、発言できるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の発言を聞いて考えようとする気持ちをもてない児童がいる。 ○リコーダーの学習に意欲的に取り組んでいる。一部、技能に課題がある児童や、自信がもてずに、演奏できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをもったり、相手の考えを聞いたりすることができず、対話的に学ばない。 ○演奏する姿勢を保てない。運指やタンギングが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題や学習の見通しを板書や掲示物で示し、目で見確認できるようにする。互いの考えを聞いて、考えを広げたり深めたりする場面を多くもつ。 ○毎回姿勢を確認する。 <p>特別支援教室と連携して、個</p>

	い児童がいる。		別に指導していただくことで、自信をもって演奏できるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業で鑑賞領域の授業に力を入れていたので、鑑賞の能力はずいぶん高まった。一方で、リコーダーや音楽づくりの学習が不十分に感じている。 ○学びに向かう態度は育ってきており、互いに学び合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲は高いが、読譜やリコーダーに苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○曲の一部分を取り出して、少しずつ読譜をしたり、リコーダーの運指を確認したりして、確実にできるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的な面もあるが、自ら考えて行動することが得意ではない児童がいる。自分を理解し、自分自身の言動を調整できるようになってほしい。 ○連合音楽会などの経験から、二部合唱に意欲的に取り組んでいる。しかし、聴く力、聴こうとする気持ちがもう少しで、話の聴き方にも課題がある。聴いて合わせることができないので、二部合唱の響きをつくるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話を聞けないため、言われたこともできないことが多い。一人一人が考えて行動することができない。 ○聴く力、聴こうとする気持ちがもう少しで、声や音を互いに聴き合って合わせるができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自ら課題をもつ場を設定する。また、課題や学習の見通しを板書や掲示物で示し、目を見て確認できるようにする。 ○短い旋律を二部合唱し、重なる響きを聴き合ったり、リコーダーの二重奏でその響きのよさを聴き合ったりし、音がそろうよさに気付くよう指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の連合音楽会や卒業式での経験を通して、表現の技能はずいぶん高まった。 ○鑑賞も意欲的で楽しく聴くことができるが、深く考えるところまで至らない児童がいる。 ○全身で楽しみながら歌 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現の技能はずいぶん高まったが、まだタンギングができない児童が多い。 ○鑑賞において使える音楽的な語彙が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想にあった表現を工夫する活動を通して、タンギングをした演奏のよさに気付き、タンギングの技能に対する必要感をもつようにする。 ○「音楽の言葉」の例を活用しながら、自分の考えを言葉にできるようにする。その際、実際の音楽とその言葉を結び付けてい

うことができる。

くようにする。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- ・「全ての児童が主体的につくりだす喜びを味わうことができ、学びに向かう態度を育てる」ことを重点目標とし、題材ごとに材料の特性を知り、その特性に合わせて、つくりたいものを言語化することやアイデアスケッチをすることによって発想を深め、イメージにあった作品がつけられるようにする。
- ・イメージを形にするためにも、初めて扱う用具の指導を特にていねいに行い、以後継続的に使うことで正しく用具が扱え、材料を活用できるようにする。造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ・作品鑑賞の時間を、作品完成後だけでなく制作の途中にも設け、友だちの作品のよさに目を向けさせ、自分の作品のよさにも気付くことを通して、つくりだす喜びを味わうとともに、豊かな情操を養う。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○何でも意欲的に、楽しく取り組むことができている。 ○パス、のり、はさみの正しい使い方を覚え、活用できる児童とそうでない児童がいる。 ○感じたことや想像したことを絵や立体に表せるが、取りかかりに自信をもてず、制作が進まないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その場の指導では覚えてはいるが、学習が定着するには至っていない。 ○周りの取り組み方を見ながら、自分の制作を進める傾向にあるため、取り組みに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的に道具の使い方をふり返り、題材に盛り込む。 ○取りかかりの始めを教師と共に行うことで、安心して制作をできるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○どの題材でも意欲的に楽しく活動できている。 ○パスや絵の具の扱い方の覚えが早く、創意工夫をしながら作品制作に取り組んでいる。クラスで数人、使い方のルールを徹底できていない。 ○友達の作品を見ながら良いところや工夫を見つけ認め合う姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲は高いが忘れ物が多い。 ○一部の児童がパレットの使い方のルールを守れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級と専科で協力しながら、も持ち物の徹底を図る。 ○低学年の内から使い方を徹底できなければ、戻すことは難しい。授業の始めに取り扱い方の復習をしたり、個別指導に努めたりする。

3年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組める児童が大半だが、課題のある児童もいる。また、作品を適当に仕上げる児童もいる。 ○これまでに学んできた技法を活用できるようになった。 ○制作中や鑑賞の際に、相手が傷つく言葉を言ってしまう児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集中力が続かず、作品制作において創意工夫が見られない。 ○友達の作品の良さや工夫を見つけたり、認めたりすることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組めるような導入や言葉かけをさらに工夫し、授業を魅力的なものにする。 ○鑑賞についての見方・考え方を日々の授業で身に付けさせる。また、良い言葉と悪い言葉の例を示しながら、自分に置き換えて考えさせるように指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲が高く、何事にも積極的に取り組む姿勢が見られる。 ○技能が非常に高く、新たな材料や道具を使う授業でも技能を習得し、創意工夫しながら作品制作に取り組むことができる。 ○授業の時間内で作品が仕上がらない児童が数名おり、個別の対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品制作の見通しがもてていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の初めに制作時間数や制作の流れをつかませる。板書やワークシートを工夫し、制作の見通しをもって作品制作に取り組めるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲は高いが、教師を呼んで確認する場面が多くある。 ○共同で作品をつくることを好み、自分の意見をアイディアスケッチや言葉で伝え、友達と協力しながら取り組むことができる。 ○友達の作品の良いところや工夫を見つけ、認めることができる。しかし、自分の作品に対する自己評価は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品と向き合い、より良い作品になるようにどのようにするべきなのか、考え自らの力で切り拓くことに課題がある。 ○自己評価が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品制作の途中でミニ鑑賞の時間をとり、工夫を見つける時間を増やす。また、児童同士で悩みを相談したりアドバイスをもらったりできるような環境をつくり、教師に頼りすぎず、問題解決能力を高めていく。 ○鑑賞カードだけでなく、鑑賞の発表や付箋を使った方法を駆使しながら、自己評価を高める。また、様々な画家の作品を見せながら、上手い下手ではない、自分が表したい作品をつくること、自分が納得する作品をつくること、自分が図工であることを日々伝えていく。

6年

○学習意欲が非常に高く、
楽しく制作する様子が見られる。

○技能はもう少しで、上手くいかないと投げやりになってしまう児童が数名いる。

○自己評価が低い。

○鑑賞カードだけでなく、鑑賞の発表や付箋を使った方法を駆使しながら、自己評価を高める。また、様々な画家の作品を見せながら、上手い下手ではない、自分が表したい作品をつくること、自分が納得する作品をつくること、自分が図工であることを日々伝えていく。

(8) 家庭科

家庭科の重点

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。

(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

(3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭科に対する興味関心が高い。 ○実習（裁縫・調理）を経て、家庭でも実践した児童がいた。 ○家事経験が豊富ではなく児童が多く、生活経験による技能の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習（裁縫・調理）は、個人差が大きく、時間の取り方が難しい。個に応じて丁寧な個別指導が必要である。 ○基礎基本となる知識・技能を的確に身に付けさせるための指導法をより研究する必要がある。 ○学習と生活とを関連付けて考える視点をもたせる指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを家庭でも実践できるよう、家庭の協力を得て家庭学習（宿題）を行う。また、その実践を報告し合うような場面を設定する。 ○日常生活の課題を授業の学習課題としてとり上げるなど、より生活に結びつくよう、学習内容や指導方法を工夫する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭科に対する興味関心が高い。 ○調理や裁縫の実習を経て、家庭でも実践した児童がいた。 ○実体験が乏しい児童が多く、生活経験による技能の差が目立つ 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習（調理・裁縫）は、個人差が大きく、時間の取り方が難しい。 ○学習と生活とを関連付けて考える視点をもたせる指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の課題を授業の学習課題としてとり上げるなど、より生活に結びつくよう、学習内容や指導方法を工夫する。 ○学んだことを家庭でも実践できるよう、家庭の協力を得て家庭学習（宿題）を行う。また、その実践を報告し合うような場面を設定する。

(9) 体育科

体育科の重点

- ・心と身体を一体としてとらえ、自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し学び合い、協力して課題を解決する。
- ・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、自己の考えや気づきを他者に伝える力を養う。
- ・その特性に応じた各種の運動の行い方や基本的な動きや技能を身に付けるようにするとともに、身近な生活における健康・安全について理解する。
- ・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○前向きに楽しく活動できている。 ○友達の良いところを取り入れて活動しようとしている。 ○友達と協力して活動する経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームやペアで友達と助け合って活動する経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームやペアでの活動時間を確保し、協力し合っている児童を称賛し、全体の意識を高める。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで楽しく活動できている。 ○友達の良い所を褒めることができている。 ○めあてを最後まで意識して活動できていない。 ○集団のなかでルールを守って活動したり、勝敗を受け入れたりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その時間のめあてを達成できたか、振り返りの時間の確保ができていない。 ○工夫すべきところの提示が不十分であり、思考・判断を見とれていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の最初に学習の流れを説明し、毎時間のめあてを明示し、振り返りまでをきちんと行うことで、めあてに沿った活動の重要性に気付かせる。 ○振り返りの時間を確保し、工夫した活動ができた児童を賞賛したり、全体でよかったところを共有したりする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に活動している児童が多いが、自分のめあてを最後まで意識して取り組んでいる児童は多くない。 ○マット運動などの器械運動の基礎的な技ができない児童が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてを意識できない児童への個別指導が十分でない。 ○個別に指導する時間の確保やポイントの提示などが十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて」と「振り返り」が適切にできている児童を紹介したり、友達と「めあて」を確認したりして、意識できるようにする。 ○練習のポイントを提示し、それを友達同士で教え合ったりしながら、練習できるように、場の設定などを工夫する。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と教え合ったり、伝え合ったりすることで自己の課題を解決できると考えている児童が多い。 ○集団のなかでルールを守って活動したり、勝敗を受け入れたりすることが苦手な児童がいる。 ○運動には前向きに取り組むが、運動経験に偏りがあり、技能差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と見合う際の視点をもたせることでより充実させる。 ○課題意識や相手意識をもち、ルールを守って前向きに取り組むことが必要である。 ○運動経験が少なく、自ら工夫したり考えたりする経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやトリオ学習をより充実させるために、学習の流れを定着させたり、資料を活用したりできるようにする。 ○集団で規則を考えたり、ルールを振り返ったりする活動を通して、徹底を図る。 ○相手がいるから競い合うことができるということを価値付け、相手意識を高められるようにする。 ○集団で楽しみながら運動することを通して、自然と技能が身に付けられる運動や発問を行い、思考を促す。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えている動きにするための工夫に課題がある。 ○実際の動きが、考えている動きとつながらない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と見合う際の視点をもたせる必要がある。 ○学習カード・学習資料を使っての課題解決学習が取り組めていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやトリオ学習を充実させ、学習の流れを定着させる。 ○学習カードを用い、慣れさせる。その際に、ふり返り活動を行い、次時につなげられるようにする
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすこと自体好きではない児童がいる。 ○技能を身に付けるためのポイントや技能を高めるために工夫するポイントを理解できないまま取り組んでいる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の特性をしっかりと味わわせる必要がある。 ○技能を身に付けるために必要な知識や、技能を高めるための教え合いなどの工夫の指導の工夫が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の特性をしっかりと味わわせる単元構成と、ゲーム性を用い、運動量を十分確保し取り組ませる。 ○技能を高めるために必要な学び方を指導し、高まりを評価することで、達成感を味わわせることができるようにする。 ○学習カードの活用や、教え合いで気づきの場面を増やし、必要な知識やその活用の仕方を身に付けられるようにする。